

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.20〉

〈黒石④ 散策マップ〉

黒石地区ふるさと運動実行委員会（松永桂二会長）は先月、4年ぶりに歩こう会を開いた。案内役は事務局の柴田省吾さん。黒石ふれあいセンターを発着点とする約4・5キロの東割方面コースを、参加者たちと一緒に2時間かけて歩いた。



干拓と水害の歴史たどる

開作堤防跡や潮位板、追悼碑

黒石小から北東の住宅街を抜けると、地区の真ん中を南北に流れる中川（①）に出た。黒石や西割方面、東割や中野開作の水がすべて流れ込むこの川は昔の厚東川の跡で、潮が引いて干潟になっても水が流れていた。



氾濫を繰り返していたため、1690年に沖ノ旦那を開作して現在地に掘り替えられた。

地区の大部分は海を干拓して造られた。干拓するためには堤防を築かなければならず、妻崎神社の裏には中野開作堤防跡（②）がある。古い石垣の基礎は13段。高さ4段、幅6段にわたって、昔の面影を残している。

厚東川沿いを南に向かつて歩くと、土手町にある妻崎神社のお旅所（③）と蟹（かに）塚（④）に行き着いた。同神社の祭礼は毎年5月20日で、住民たちに担がれたみこしが、お旅所までを勇壮に往復する。昔は、神社前

の鳥居から一直線の参道（⑤）で流鏝馬（やぶさめ）も行われたという。真（ま）は1819年に建立された、妻崎開作（東割、西割、塩屋台）の守護神として親しまれている。境内には、2・3段の農民たちが大量に駆除したカニによる被害を示す「潮位板」、大水害から50周年の際に立てられた「厚南大水害受難追悼の碑」もある。平穏な厚南平野に二度と大惨事が起きないように、後世の人たちに訴えている。

干拓によって発展した一方で、水害も受けてきた黒石地区。松永会長は「地区内を歩いて、古里の歴史に関心を持ってほしい」と話した。

今回は厚東地区。18日スタート。